

フィットネスクラブを活かした鉄道沿線地域活性化の提案

史 中超 研究室

1131081 坂倉 基裕

1. 研究背景・目的

近年、日本は人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる。このような人口減少・少子高齢化は沿線地域に密着した事業を行っている都市鉄道に大きな影響を及ぼしている。沿線地域の人口減少は輸送人員の減少や不動産、小売等の関連事業の衰退の要因となる。また、沿線地域の高齢化が進行すれば地域商店街の衰退、地域の活力の低下を招くこととなる。少子高齢化対策と地域再生が密接な関係だといわれている[1]現在、フィットネスクラブが果たす役割と効果が注目されている。

そこで、本研究では、フィットネスクラブを活かした相鉄線沿線地域の活性化を目的とし、沿線の既存フィットネスクラブの現状と問題点を検証し、新規フィットネスクラブの設置と適地選定を行い、その効果について検証する。

2. スポーツとフィットネスクラブの役割について

スポーツには人と人とのコミュニケーション形成や自分自身を成長させる効果があると考えられる。具体的な例として、下津スポーツクラブが行った高齢者を対象にしたスポーツ教室が挙げられる。この教室の参加者へのアンケート結果によると、この活動に参加してよかった理由として「楽しい」と答えた人が 81.9%もいたとされている[2]。このようなスポーツ教室は、明るく楽しい雰囲気なのか、高齢者が気軽に「参加する」「体を動かす」という機会をつくり出すことができ、仲間づくりや地域づくり、自身の健康維持といった効果があ

ると考えられる。特に、スポーツ・運動ができる場所として、インストラクター等がそろったフィットネスクラブの存在が非常に重要である。

フィットネスクラブがもたらす効果として、大きく分けて個人的効果と社会的効果がある。個人的効果には健康増進とスポーツを行うことで得られる達成感などがあげられ、社会的効果には世代間のつながりを生むといった効果があげられる。この二つの効果が合わさることで経済的効果を生み、地域の活性化に繋がると考えられる。

3. 相鉄線沿線の現状

本研究では、相鉄線沿線を研究対象として選定した。主な理由としては、相鉄線沿線に 2 つ大きなプロジェクトが進められている。1 つ目は、JR 線と東急東横線への乗り入れ路線を建設し、相鉄線からの双方の路線への直通運転を実現させる都心直通プロジェクトである[3]。もう 1 つは、星川駅と天王町駅を含めた約 1.8km を高架化し、交通の円滑化による都市機能の充実を主な目的とする相模鉄道本線星川駅～天王町駅間の連続立体交差事業である[3]。この 2 つのプロジェクトにより、今後相鉄線の利用者の増加や沿線住民の増加、経済活動の活発化などが見込まれる。相鉄線沿線の現状を調査したところ、既存フィットネスクラブの数が少ないという結果が得られた。利用者の増加や沿線住民の増加が見込まれているので、フィットネスクラブを増設する必要があると考えられる。

4.新規フィットネスクラブの提案

上記3の相鉄線沿線のフィットネスクラブの現状を踏まえて、新規フィットネスクラブの適地選定を行う。適地選定の際に、既存フィットネスクラブの立地条件を考察し、以下の6つの条件を設けた。

- ・最寄りの駅から約1km以内
- ・人口密度が比較的に高い場所
- ・最寄り駅の1日の平均乗降者数
- ・相鉄グループビジョン” Vision100”
- ・駐車場、駐輪場スペース
- ・駅周辺の商業施設の有無

この条件をもとに選定すると、西谷駅、鶴ヶ峰駅、瀬谷駅、弥生台、いずみ中央駅の5駅が選定された。選定された5駅の中から西谷駅の周辺に新規フィットネスクラブを増設する場合を考察する。横浜駅から見て、西側には主に西谷商店街と住宅街、東側には主に畑と住宅街が広がっている。西側には商店街やマルエツといった商業施設があることから、フィットネスクラブを増設する場所は東側に比べ、西側が適していると考えられる。



図1 西谷駅付近の西谷商店街の構図

参照：グーグルマップ

しかし、図1に示すように、西側に住宅や店舗が密集しているため、フィットネスクラブを増設する場所がないことが分かる。そこで、駅から約500m離れている駐車場裏の森林となっているスペースが適地として選定した。主な理由としては、駅からの距離が約500mであることと目の前に広大な駐車場があること、駅から新規フィットネス

クラブの間に商店街の様々な店舗やスーパーなどがあり、他の施設の利用促進につながるからである。

新規フィットネスクラブを増設した場合の効果としては、西谷商店街の活性化や様々な世代間のコミュニティの形成が考えられる。また、西谷駅は相鉄線が掲げる都心直通プロジェクトにおいてJR線と相鉄線がつながる重要な駅となっているので、今後西谷駅の利用者の増加や沿線住民の増加が見込まれ、フィットネスクラブの利用の増加につながる事が考えられる。

5. まとめ

本研究では、相鉄線沿線地域を中心に、フィットネスクラブとその役割について、調査・分析した。フィットネスクラブを鉄道沿線駅の近くに設置することにより駅を訪れる人々が増加し、駅周辺の商業施設やオフィス、公共施設などを利用する人々も増加することにつながるため、結果として沿線地域の活性化に役に立てることが確認された。それに、相鉄線沿線のフィットネスクラブの現状を踏まえうえて、新規フィットネスクラブの適地選定を行い、その結果として、西谷駅、鶴ヶ峰駅、瀬谷駅、弥生台、いずみ中央駅等5つの駅周辺が新たなフィットネスクラブの適地として選定された。

本研究で取り上げたフィットネスクラブのような人々のニーズを取り入れた施設やサービス等を積極的に作ることによって、その周辺の地域の活性化につながる可能性があるため、地域再生のヒントの一つになるかもしれない。

5. 参考文献

- [1] 内閣府地域活性化推進室
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/>
- [2] 文部科学省 総合型地域スポーツクラブ
http://www.mext.go.jp/a_menu/05_d.htm
- [3] 相鉄グループ要覧 2013